

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24402045

研究課題名(和文)アジア高等教育における透過性のある教育フレームワークの構築に向けた比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Asian Higher Education for the Establishment of Permeable Framework

研究代表者

堀田 泰司 (Hotta, Taiji)

広島大学・国際センター・准教授

研究者番号：40304456

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アジア地域全体の教育交流・連携の促進のためにアジア地域全体に共通する枠組みを構築することを目的に、アジア24か国・地域の高等教育の枠組みを比較した研究である。成果としては、本研究によって得られた24か国・地域の情報は、今後、日本とアジア諸国間の教育交流を発展させるために非常に重要な参考資料となり、また、27年度よりアセアン諸国並びに中国、韓国、日本の政府並びに専門家によって検討が始められているアジア共通の単位互換制度構築に向けた協議においてもアジアの実態を理解する基礎データとして非常に重要な役割を果たしている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to develop an aligned framework of higher education for a future promotion of student mobility in Asia by comparing different educational frameworks among 24 nations and regions in Asia. As major outcomes, the data on Asian higher education frameworks in 24 nations and regions will served as a very important reference for the development of educational exchanges among Japan and other Asian nations in the future. Moreover, the data have been already serving as important basic data to understand the actual conditions of higher education in Asian region at the current official discussions among governments and experts of ASEAN 10 nations, China, South Korea and Japan in order develop an aligned credit transfer system in Asian region.

研究分野：比較教育学

キーワード：高等教育 アジア 比較教育 単位互換

1. 研究開始当初の背景

近年、アジア地域では、高等教育の地域化、特に質を保証した学生交流や留学生の流動性を拡大するため、様々な形で政府間レベルのディスカッションが行われている。その代表的な活動としては、環太平洋地域の諸国が組織し発展させてきたアジア・太平洋大学交流機構（以下 UMAP）やアセアン諸国が組織したアセアン大学ネットワーク（以下 AUN）とアセアン学生交流（以下 AIMS）プロジェクト、そして、東アジア3カ国による「キャンパス・アジア」事業等が挙げられる。また、それらの活動では、それぞれ単位・成績評価の互換スキームを中心に異なる制度間でも相互の教育の質や学習量等が公平かつ正確に互換できる透過性 (Permeability) のある教育フレームワークを独自に開発しようとしている。しかし、そうした発展を検討する政府間レベルの討議では、往々にしてアジア地域全体の本来の制度の相違点や類似点を十分に把握することなく欧州諸国で発展した欧州単位互換制度（以下 ECTS）や成績互換の概念等をアジア共通の教育フレームワークとして、そのまま導入しようとする傾向が見られる。

こうした共通の教育フレームワークの発展に関する学術研究は、欧州諸国では ECTS やボローニャ・プロセスの効果等については、発展段階から継続的に多くの研究がなされているが、アジア諸国における高等教育制度を比較しアジア地域の特徴を十分に考慮した透過性のある教育フレームワークの概念形成につながる研究はほとんどなされていない。そうした状況の中、研究代表者は、これまで10年間以上 UMAP 事業の UMAP 単位互換制度（以下 UCTS）のアジア諸国における普及活動に専門家として参加しており、同時に UCTS のモデルとなった欧州諸国の ECTS やボローニャ・プロセスにおける2サイクル・システムやディプロマ・サプルメントのような透過性のある教育フレームワークの普及過程とその効果について研究を行ってきた。

そして、平成21年度（2010）文部科学省・先導的大学改革推進委託事業「アセアン単位互換制度（以下 ACTS）と各国の単位互換に関する調査研究」では、研究代表者として、アセアン+3の韓国、中国、日本、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、合計13カ国の単位・成績評価制度並びに各国の質保証に関するデータをまとめ、比較表を作成し、日英両言語にて広く一般に公開した。よって、本研究では、すでに実施したアジア13カ国の比較研究の対象を24か国・地域に拡大し、

さらに調査項目も拡充し、アジア全体の高等教育制度の枠組みについて現状を把握しようとした。

2. 研究の目的

本研究は、近年、アジア諸国が模索する透過性 (Permeability) のある教育フレームワークを構築するためには、どのような枠組みが、一つの高等教育圏を構築するためのアジア全体の共通概念として構築できるのか24か国・地域の基礎データを分析し、考察することを目的とする。本研究では、アセアン+3の13カ国に加え、台湾、香港、マカオ、東ティモール、モンゴル、そして南アジア6カ国を含め、24か国・地域の高等教育制度を国内外で調査し、主に単位制度、成績評価制度、学生交流事業等の細かい情報について各国のカントリー・レポートと24か国・地域全体の高等教育の枠組みに関する指標の相違点と類似点を分析した比較表を作成する。そして、その基礎データを欧米諸国の制度とも比較しながら、透過性のある教育フレームワークの重要な要因についてより具体的な概念を発展させる。

3. 研究の方法

本研究ではすでに平成21年に一度、調査を実施した13カ国を再調査し、情報の拡大とデータの精度を向上させると共に、前回対象ではなかった香港、マカオや台湾、東ティモール、モンゴル、さらにアセアン+3の諸国にとって今後の連携が重要となる南アジアのインド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルディブ、計6カ国も加え、アジア地域の24の国と地域を対象に国内外の調査を実施する。尚、アフガニスタンとパキスタンについては、情勢が不安定なことから今回の調査対象からは外している。前回の調査ですでに基礎データを報告したアセアン+3の13カ国については、既存のデータをアップデートすると同時に、追加項目として各国の学生交流やカリキュラムの国際化等について国内外で調査を行い、世界の高等教育機関にとってより利用度の高い情報を比較表に入れた。また前回の調査では対象外であった上記11カ国と地域についても国内での文献調査と高等教育機関を中心に現地聞き取り調査を実施し、高等教育制度の基礎データをまとめた。

本研究では、まず平成24年から2年間、アジア地域の24の国と地域における高等教育の単位制度、成績評価制度、学年歴、学生交流事業等の一般的な傾向について、現地の政府並びに認証団体、そして主要な高等教育機関を訪問し調査した。そして国ごとに収集できた高等教育制度並び教育交流活

動の状況に関する国別データを取りまとめ、日本語で各国のカントリー・レポートを作成し、さらにそれらの国と地域の比較表は日本語と英語の両言語で作成し、印刷物として学会等で配布すると同時に、広島大学学術情報リポジトリのサイトにて平成 27 年末までには国際的に広く一般公開する予定である。

4. 研究成果

本研究により得られたデータは、非常に多く、また、各国の高等教育の枠組みの多様性が明確に現れている。しかし、同時に、その多様性には、いくつかの傾向がみられることも事実である。以下は、そうした枠組みの相違点と互換性について、現在、特にすすめられているアジア共通の単位互換構築のための国家間の協議に活用できる指標に関する傾向を報告する。また、24 か国・地域の内、唯一国内の大学に対し、アンケート調査を実施した日本の高等教育の現状についても概説する。

(1) 研究課題に対する調査結果

アジア共通の単位互換構築に向けた基礎データとしては、まず第 1 に、アジア 24 か国の現在の単位制度には、大きくわけて 3 つの傾向があることが判明した。第 1 に、多くの国では、単位制度に教員と学生が共に費やす授業時間の概念を活用し、実際の単位数を計算している。そして、多くの国の授業時間数による換算は、1 単位を 13 時間から 16 時間で計算している。第 2 に欧州諸国が特に促進する授業時間数に加え、学生が宿題や課題レポートの作成等に費やす自主学習の時間数を含めた学習時間数による単位の換算は、24 か国の多くの国では、インターンシップや実験等以外では、まだ、一般的な単位互換の換算方法でないことが判明した。また、活用している場合の時間数は、数か国では、1 単位 = 10 時間で換算しているのに対し、もう一方では、1 単位 = 38 時間から 48 時間という時間数で計算しており、学習時間数には、大きな開きがあった。第 3 に欧州の ECTS は年間の平均取得単位数を 60 単位と定めているが、アジア諸国の多くの教育機関では、平均年間 30 単位から 40 単位程度、学生が履修するようカリキュラムが構成されている。これらの現象から、アジア共通の単位互換制度を構築するためには、第 1 に授業時間数による共通の規定を確定する必要がある。そして、欧州諸国が重要視する学習時間数に基づく単位制度については、少し広い幅を設け、対応する必要があることが判明した。また、今回の 24 か国の比較研究は、2010 年の調査結果から提案したアジア共通の単位互換制度

である「アジア学術単位（以下 AACs: Asian Academic Credits）」の 1 単位 = 13-16 時間の授業時間数、または、38-48 時間の学習時間数をもってアジア共通の 1 単位とするという概念をおおむねアジア 24 か国・地域においても活用できることを証明した。AACs の概念をアジア諸国が推奨することで、アジア域内の 1 単位はどの国でも等価であると定めることができ、それにより欧米諸国とも互換性が高まり、世界全体の学生の流動性や国際的共同教育プログラム等の発展がさらに期待できるようになったと考える。

日本のアンケート調査は、26 年 8-9 月に質問票を全国の 770 国公私立大学に送付し、224 大学（回答率 28.9%）から回答を得た。調査は、日本国内の高等教育における国際的透過性のある枠組みに関する各大学の取組状況を互換性、透明性、信頼性という 3 つの観点から調査し、積極的に取り組んでいる大学と取組に消極的な大学のタイプを分析し、それらの異なる取組状況に影響する要因を明確化させることを目的とした。調査結果の成果としては、現在は第 1 段階の分析として国公私立大学別に比較した主な調査結果をまとめ学会等で発表している。主な調査結果は、以下の通りである。

まず第 1 に、全体を通して国立大学の方が公・私立大学に比べ、全ての項目において、国際的透過性のある枠組みに関する取組に積極的であり、留学生の受入れ体制等において、大きな差があることが分かった。

第 2 に、海外大学との互換性を高める体制は、国公私立共に積極的であるが、新たな制度改革等では、国立と公・私立大学間で開きが見られた。

第 3 に、海外の大学に対する教育プログラムや制度等の透明性としては、シラバスやホームページを通して情報を広く公開する取組は、多くの大学が有意義と認めたものの、単位制度やその他の学内規定や教員の資格等については、国立と公・私立大学では非常に大きな開きがあった。

最後に、海外の大学に対する信頼性については、特に留学生の生活支援や日本語教育等で国立大学と公・私立大学間で開きがあった。また、国際交流事業に従事する職員の研修等においても、大きな違いが見られた。

以上の傾向とその他の要因分析から、3 つの要因全体の傾向としては、英語による学位取得可能なプログラムや海外の大学と協同で開発した国際共同教育科目、そしてサマースクールのような集中講義型のプログラム等、留学生受入れを意識した国際教育プログラム開発の取組は、全体の 1-2 割程度で、まだ限定的であることも確認できた。それは、

大学の透過性でも同様の傾向が見られ、上記教育プログラム等を運営する上で必要な国際的な単位互換制度の活用、そして教員や教育内容の質を見せるための英語による具体的な情報の公開や国際的な外部認証評価の実施等は、これからの課題であることが分かった。

(2)研究成果の国内外での位置づけ

研究成果の第1の位置づけとしては、その研究成果を印刷物やオンライン上でも広く一般に公開することで、主に国内の大学関係者、特に交流事業を促進しようとする関係者に対して、アジア24か国の様々な制度に関して基礎データを提供することができる。

第2に、アセアン諸国が現在検討を始めているアジア共通の教育の枠組みの開発のさらなる発展のために本研究から得られたデータは、重要な基礎データとして活用できる。27年度は、アセアン教育大臣機構（SEAMEO）を始め、ASEAN+3の政府間協議等も始まり、研究代表者は、単位互換に関する専門家としていくつかの会議に出席する予定であるので、本研究成果のデータを今後、国際会議において、活用していく計画である。

(3)今後の活動計画

今後の活動としては、今回の研究成果を踏まえ、まず、アジア共通の単位互換制度が発展するよう、本研究成果をさらに分析し、上記のような国際会議等において、参考資料としてデータを紹介する。

次に、本研究と関連した次回の科学研究費助成金の申請では、透過性のある教育フレームワーク構築に向けた高等教育の質保証、相互信頼関係の構築をどのような教育の枠組みを構築することで実現できるのか研究する計画である。特に規模の小さい新設の大学等、国際的ピジビリティーの少ない教育機関がどのような国際教育プログラム等を開設し、同時に、その情報を対外的に発信し、さらに質を保証する制度の枠組みを整備することで、対外的な信頼度を向上させることができるか、特にアジア諸国の大学を対象に調査を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

(1)上別府隆男「新生ミャンマーにおける高等教育改革の課題と可能性: ポリティクス、自治権と国際化」、広島大学国際センター紀要(査読無)第5号、2015年3月、5-18頁 [http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/37117/201505070937374117

65/HU_IntCenterKiyoo_5_5.pdf]

(2)渡部由紀、金性希「グローバル化時代の国際教育交流プログラムの在り方 韓国の4大学の事例から」『一橋大学国際教育センター紀要』(査読無)第5号、2014年7月、113-126頁[https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/26868/1/kokusai0000501130.pdf]

(3)杉村美紀「東ティモールの教育発展とイエズス会学校設立の意義」『上智大学教育学論集』(査読無)第48号、2014年3月、29-42頁[http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/35821/1/200000020487_000133000_29.pdf]

(4)上別府隆男「バングラデシュ高等教育における国際交流推進の可能性: 政治化と質保証の観点から」、広島大学国際センター紀要(査読無)第4号、2014年3月、45-58頁 [http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/35608/20141016205620942958/Hiroshima-IntCenter-kiyo_4_43.pdf]

(5)堀田泰司「透過性のある単位互換枠組みと国際連携: Asian Academic Credits (AACs)の可能性」『日本比較教育学』(査読有)第48号、2014年1月、93-103頁

〔学会発表〕(計9件)

(1)堀田泰司、村澤昌崇、三上亮、「日本の高等教育機関における国際的透過性のある枠組みの現状」日本高等教育学会第18回大会、2015年6月28日、早稲田大学(東京都)

(2)堀田泰司、秋庭裕子、潘建秀、三好登、「A comparative study of Asian higher education systems for a future alignment process and more mobility in the region」(パネルセッション)国際・比較教育学会(CIES)第59回大会、2015年3月9日、ヒルトン・ホテル、ワシントンDC(米国) **選考審査あり**

(3)堀田泰司「アジアと世界を繋ぐ透過性のある教育フレームワークの可能性」高等教育質保証学会第4回大会、2014年8月23日、成城大学(東京都) **招待講演**

(4)堀田泰司、秋庭裕子、杉村美紀、渡部由紀「A Comparative Study on the Educational Framework of Higher Education in Asia: Case Studies of Five Nations and Introduction of Asian Academic Credits (AACs)」(パネルセッション)国際・比較教育学会(CIES)第58回大会、2014年3月11日、シェラトン・センター・トロント・ホテル、トロント(カナダ) **選考審査あり**

(5)堀田泰司「アジア高等教育における透過性のある教育フレームワークと Asian Academic Credits (AACs)の可能性について」

日本比較教育学会第49回大会・上智大学100周年記念事業公開シンポジウム、2013年7月6日、上智大学(東京都)招待講演

〔図書〕(分担執筆 計2件)

(単著)なし

(分担図書)

(1) 堀田泰司「第7章、学生交流政策と単位互換：欧州の共に学ぶ学生交流事業とアジアの挑戦」松塚ゆかり編『グローバル化の中の高等教育 人材流動化時代の大学への期待』(ミネルヴァ書房、2015年)[2015年刊行予定]

(2) 堀田泰司「第9章、ヨーロッパの高等教育の地域統合と東アジア」黒田一雄編『アジアの高等教育ガバナンス』(勁草書房、2013年)pp.231-255

〔その他〕(計5件)

重要な関連国際会議(招待講演のみ)

- (1) 堀田泰司「Possibilities of ACFTA (Academic Credit Transfer Framework for Asia) for Student Mobility in Asia」Sophia-AIMS 国際シンポジウム、2014年12月、上智大学(東京)
- (2) 堀田泰司「The Impact of Bologna Process to Asian Higher Education: Development of Asian Academic Credits (AACs) and Student Mobility with Learning Outcomes」エラスムス・ムンドス、アクション2(EMA2)プロジェクト合同ワークショップ、[主催:エラスムス・ムンドス・アクション2(EMA2)プロジェクト参加5大学並びにカンボジア教育省高等教育局]2014年11月14日、Apsara Angkor Resort & Conference, シアムリープ(カンボジア)
- (3) 堀田泰司「Towards Interregional Credit Transfer - Credit Transfer Systems of Asia and Europe」ASEM (Asia-Europe Meeting) 認証・質保証会議[主催:マレーシア資格機関(MQA)]2014年8月26日、Sunway Putra Hotel, クアラルンプール(マレーシア)
- (4) 堀田泰司「Dawn of UMAP Asian Mobility Zone: Introduction of New-UCTS」UMAP 国際大会、2013年10月23日、天主教輔仁大學, 台北(台湾)
- (5) 堀田泰司「Current Credit Transfer System in Japanese Universities」SEAMEO - RIHED 国際ワークショップ、2012年11月5日、SEAMEO-RIHED 会議室、バンコク(タイ)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀田 泰司 (HOTTA TAIJI)

広島大学・国際センター・准教授

研究者番号: 40304456

(2) 研究分担者

秋庭 裕子 (AKIBA HIROKO)

一橋大学・大学院商学研究科・特任准教授

研究者番号: 10313826

太田 浩 (OTA HIROSHI)

一橋大学・国際教育センター・教授

研究者番号: 70345461

上別府 隆男 (KAMIBEPPU TAKAO)

東京女学館大学・国際関係学部・教授

研究者番号: 50350707

黄 福涛 (FUTAO FUANG)

広島大学・高等教育研究開発センター・教授

研究者番号: 60335693

杉村 美紀 (SUGIMURA MIKI)

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号: 60365674

二宮 皓 (NINOMIYA AKIRA)

比治山大学・現代文化学部・学長

研究者番号: 70000031

潘 建秀 (PAN JIAN XIU)

大阪大学・国際教育交流センター・招聘准教授

研究者番号: 70570141

マハラジャン ケシャブ・ラル (Maharjan, K. L.)

広島大学・国際協力研究科・教授

研究者番号: 60229599

村澤 昌崇 (MURASAWA MASATAKA)

広島大学・高等教育研究開発センター・准教授

研究者番号: 00284224

渡部 由紀 (WATABE YUKI)

一橋大学・大学院商学研究科・助教

研究者番号: 60600111

(3) 連携研究者

金 性希 (KIM SOUNGHEE)

独立行政法人大学評価・学位授与機構・研究開発部・研究員

研究者番号: 60568715

(4) 研究協力者

三上 亮 (MIKAMI RYO)

広島大学・高等教育研究開発センター・博士課程後期学生